

日本版「PISA スーツケース」の開発に関する基礎的研究

水戸部 修治

地域教育文化学部 地域教育学科

(平成19年10月1日受理)

要 旨

「PISA スーツケース」は、ベルリン州立学校・メディア研究所が開発した、基礎学校の児童の読解力向上のための教材集である。2000年に OECD が実施した PISA の読解力調査結果の不振を受けて、ドイツ連邦共和国内における様々な対応策の一つとして作られたものである。その特徴は、「読解力」とは何かを明確に解説するとともに、多様で具体的な指導のアイデアを提示している点にある。我が国においても2003年の PISA 読解力調査結果で、読解力の低下が指摘され、様々な対応策が提言されている。「PISA スーツケース」を我が国の教育課程に適合したものに改良して活用することは、児童生徒の読解力向上の有効な方策の一つになると考えられる。そこでまず、「PISA スーツケース」の8つの内容とその特性を明らかにした。次いで、日本版を開発するにあたっては、PISA の定義する「読解力」の理解促進と読書のプロセスを生かした教材の提示が重要であることを解明した。このことを踏まえ、物語を題材として、小学校国語科の授業で活用可能と思われる教具を試作するとともに、今後の課題を整理し、更なる開発の土台を作った。

はじめに

2003年に行われた国際的な生徒の学習到達度調査(PISA)において、我が国の生徒の読解力が低下したことが指摘された。

PISA (Programme for International Student Assessment) は、OECD が行う国際的な生徒の学習到達度調査である。各国の15歳の生徒を対象として、第1回は2000年、以降2003年、2006年と3回行われている(このうち2006年調査の結果は平成19年12月に公表、次回は2009年実施予定)。PISA は「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」「問題解決能力」の4分野において実施されている。PISA においては、読解力を次のように定義している。¹⁾

「読解力とは、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に

参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力である。」

我が国の場合、PISAにおける「読解力」の調査（以下、PISA「読解力」）結果について見ると、2000年調査においては参加31か国中第8位で第1位のフィンランドとは統計上の差がなかったものの、2003年調査では第14位でOECD平均程度まで低下した。²⁾ 文部科学省はこの結果を重く受け止めて、平成17年12月には『読解力向上に関する指導資料』を公表している。この資料においては、「指導改善の方向」の基本的な考え方として次のように指摘している。³⁾

「PISA 調査のねらいとするところは、現行学習指導要領で子どもに身に付けさせたいと考えている資質・能力と相通じるものであることから、学習指導要領のねらいとするところの徹底が重要である。」

しかし、児童生徒の学習状況に関する「教育課程実施状況調査」においては、例えば小学校国語科では下記のように平成10年告示の学習指導要領の趣旨を十分に具体化できていない点があることも指摘されている。⁴⁾

- (1) 文学的な文章を読むことについては、登場人物の心情把握や感想に関する問題や、あらすじや内容をとらえる問題では設定通過率を上回ったが、表現の特徴を問う問題では設定通過率を下回った。
- (2) 説明的な文章を読むことについては、OECD/PISA 調査において、文章や資料についての解釈や、解釈を踏まえての自分の考えの構築についての課題が指摘されたが、内容がどの段落に当てはまるか選ぶ問題で設定通過率を下回ったほか、引用したり大事なことを使って表現する問題において、自分の経験のみを記述する傾向が見られるなど、国際調査と同様の傾向。

このような状況を改善するためには、国語科を中心とした授業改善が最も重要な方策であると考えられる。しかし、国語科授業改善の要因は多岐にわたる⁵⁾ ため、従来の方策にとらわれず、多彩な手だてを講じる必要がある。

その手だての一つに、諸外国がどのように読解力向上に取り組んでいるのかを解明することがあげられる。近年、PISA「読解力」においてトップの成績を収めたフィンランドの教育については解明が進んでいるが、社会的背景や教育制度の違いなど、すぐには我が国に導入できない要因も多い。⁶⁾

そこで、我が国と同様に PISA における「読解力」の低下を受けて、その改善を目指す諸外国の取組に着目した。

1 研究の目的

PISA における「読解力」の低下を受けてその改善を目指す諸外国の取組のうち、ドイツ連邦共和国（以下、ドイツ）において読解力向上のために開発された「PISA スーツケース」を取り上げることとする。

なお管見では、我が国においてこの「PISA スーツケース」について論じるのは、本論考が最初のものである。

研究の全体構想としては、PISA「読解力」の結果が示すように喫緊の課題である「読解力向上」のため、この「PISA スーツケース」の長所を生かしつつ、我が国の教育課程

に適合した日本版「PISA スーツケース」を開発し、小学校において国語科の授業改善に機能する教材を開発することを目的とする。このうち、本論においては、その基礎として、「PISA スーツケース」の特徴を明らかにするとともに、その一部について日本版の試作を行った結果を分析することとする。

2 「PISA スーツケース」の概要と特徴

(1) 「PISA スーツケース」の開発の経緯

ドイツは2000年のPISA「読解力」において21位となり、日本より早く読解力低下という現状に直面した。このPISAショック以降、ドイツ連邦・各州・大学・研究機関・図書館そして初等中等教育機関において読解力向上に関する様々な取組が行われている。

その中で注目に値するのがベルリン州立学校・メディア研究所（Berliner Landesinstitut fuer Schule und Medien）が開発した読み方実践ボックス（Praxisbox Lesen）である。開発当初スーツケース型をしていたことから別名「PISA スーツケース」とも呼ばれており、基礎学校（Grundschule）における読解力向上の教育実践のための教材集である。

筆者は2005年11月26日から12月9日にかけて、独立行政法人教員研修センターの「平成17年度国語力向上研修調査研究団」の一員としてドイツ・フランスにおける母国語教育の状況に関する調査に参加した。この調査研究において11月29日に上記研究所を訪れた際、「PISA スーツケース」の開発について情報を得ることができた。その概要は以下のとおりである。

(2) 「PISA スーツケース」の概要

①ベルリン州立学校・メディア研究所における「PISA スーツケース」の開発

ベルリン州立学校・メディア研究所は授業開発・学校開発・メディア研究を柱とする研修センターである。2000年のPISA「読解力」の結果を受け、教員研修の中心を子供の読書力を高める方向にシフトさせた。

その具体策の一つとして「PISA スーツケース」と名付けた読書力を高めるための指導方法論及び教具一式を作成し、各学校に貸し出した。その後、より多くの学校に普及させるため、民間会社と提携して改良した「読み方実践ボックス」として2003年から市販している。ベルリン州内の基礎学校のドイツ語を中心とした授業で活用されており、授業改善に大きな成果を上げている。

②「PISA スーツケース」の構造

「PISA スーツケース」の内容は8つの下位項目に分けられている。具体的内容は以下のとおりである。

ア 教師向けの説明（Leseinteresse）

PISA型読解力とは何かを教師向けに解説したカード。読解は、本と読者との双方の関わりにより段階的に作り上げていくものであり、意味が本から頭に一方通行で流れ込む事が読解ではない、という基本的な概念を説明したものである。

イ 読みの能力分解（Leseübungen）

読解力を高めるための能力構造を解説したものである。具体的な内容としては、

- ・語や文の分解。
- ・タイトルや挿絵などから文中に出てくる語の推測（テーマや文脈の把握力を活用した仮説設定）。
- ・文章の読みを通した仮説の検証。

といった項目を示し、これらの能力が身に付くことで読解力が高まることを解説している。

ウ 読みのストラテジー（Lesestrategien）

読みの基本的な方略を解説したものである。具体的な内容は以下の通りである。

- ・タイトルから内容推測し5つの単語を予想する。
- ・音読する。
- ・意味の不明な語の意味推測と意味調べ。
- ・段落分け・小見出しを付ける。
- ・要約する。
- ・要約したことを相手に発表する。
- ・最初の5つの語の妥当性を検証評価する。

エ 課題を持ちながら読む（Leseaufgaben）

読み取った内容をどうまとめるか（例えば図やグラフ等）、どう処理するかを位置付けた読解の具体例を示したもの。以前はドイツでは読む能力＝音読力とされていたが、PISA が定義する読解力をより意識するようになってきていることからこの内容が位置付けられている。

オ 読むプロセス（Leseprozesse）

様々な読書活動を取り入れた読解のプロセスを具体的に例示したものである。ベルリン州立学校・メディア研究所における聞き取り調査では、下記の例のように、実物教具として提示していた。

・「本の箱」

タイトル、作者、読後の評価などを箱のふたの裏側に記載し、物語の主人公をはじめとした登場人物を人形にして箱に入れたもの。物語の基本構造が把握できるようになっている。

・「緋色の糸」

物語の出来事をカードに書き、それらが起きた順に緋色の毛糸に洗濯ばさみでつないでいくもの。物語のあらすじが一目で分かるようになっている。

・「読書ロール」

筒状の入れ物の外側に、自分が読んだ本を推薦するキャッチコピーを書き、筒の中には物語の紹介を書いたものを入れておく。

カ 読む文化（Lesekultur）

学校全体として取り組む読書活動を提示することにより教室を超えて学校文化として定着させることをめざす。

キ 保護者との連携（Elterm）

保護者に対して、「定期的に子どもに読み聞かせをしてあげましょう。」「子どもの興

日本版「PISA スーツケース」の開発に関する基礎的研究

味・関心を把握しましょう。」「子どもと書店や図書館へ行ってみましょう。」「家で静かに本を読める場所を作ってあげましょう。」「子どもに、好きな映画の原作本を読ませましょう。」「子どもに雑誌の定期購読をプレゼントしましょう。」「子どもと一緒に本を読む時間を作りましょう。」という7つのアドバイスを提示し、その中から3つを選択して実行するよう働きかける。

ク 読書力を自己評価シートで診断 (Diagnose)

学習指導要領との関連を持たせた評価を行えるようにするもの。

③「PISA スーツケース」の特徴

「PISA スーツケース」の特徴をまとめると、以下のとおりである。

- ア 単なる教材集・指導アイディア集ではなく、指導理念と具体的な指導方法が一つの箱にまとめられている。
- イ 理念を反映させた作品例や指導ポイントが具体的に盛り込まれており、各学校で活用しやすい。
- ウ PISA が定義する幅のある「読解力」を、8つの視点からトータルに育成できるように構成されている。

3 日本版「PISA スーツケース」の開発の意義と課題

(1) 日本版「PISA スーツケース」開発の意義

上記のような内容と特徴をもつ「PISA スーツケース」は、読解力を教材・教具や解説書などの形で具体的に提示するものであり、読解力を育成する上で大きな可能性をもつものと考えられる。具体的には以下のような現状の改善が期待できると考える。

① PISA「読解力」の定義の理解促進

我が国における読解力育成の課題として、学校教育において「読解力」についての理解が十分進んでいないことがあげられる。

平成10年の学習指導要領改訂に当たり、教育課程審議会は小学校、中学校及び高等学校の国語科の改善の基本方針として、「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。」ことを答申し、画一的な読解指導の改善を提言した。⁷⁾ この答申に基づいて改訂された小学校学習指導要領国語科においては、「C 読むこと」の内容を、

- ア 読書的な読むことに関する指導事項
- イ 叙述内容に即した読むことに関する指導事項
- ウ 想像的な読むことに関する指導事項
- エ 事象と感想、意見にかかわる読むことに関する事項
- オ 目的的な読むことに関する指導事項
- カ 声に出しての読むことに関する指導事項

の6つの系統で幅のあるものとして示そうとしている。⁸⁾

しかし、教育課程実施状況調査や PISA「読解力」の結果が示すように、十分な授業改

善が図られているとは言い難い状況にある。

寺井正憲は、読むことにおける基礎・基本が、授業実践の場においては狭く固定化してとらえられている現状を指摘している。⁹⁾ また『読解力向上に関する指導資料』は、PISAの読解力の定義について、「我が国の国語教育等で従来用いられていた『読解』ないしは『読解力』という語の意味するところとは大きく異なることに注意する必要がある。」としている。¹⁰⁾

『山形県子ども読書活動推進計画』においても、「叙述を注意深く読んで解釈する能力が重要であると同時に、ストーリー展開を楽しんだり、筆者の主張を端的にとらえたりするなど、内容を大づかみに把握して読む能力や、表現の特徴や内容の妥当性を評価しながら読む能力、読んだことを基に自分の意見を論じたりする能力も読書力を構成する能力」であるといった指摘が見られる。¹¹⁾

「PISA スーツケース」は、単に具体的な指導方法や教材を提示するだけではなく、どのような能力をどのような読書活動で育むのかを提示・解説している点で、「読解力」の実像を明示するものとなっている。従って、「読解力」を狭くとらえてしまいがちな現状を打開する効果があると考えられる。

②読書のプロセスを生かした教材の提示

近年、PISA が問う調査結果としての読解力を意識する余り、クリティカルリーディングの技術的指導に偏る状況も見られ始めている。井上一郎は、PISA が「調査として行われるが故に、課題設定や読書計画を立てたりするプロセスは省略され、精読する『読解』のプロセスに焦点が当てられた」と指摘し、「読解力」を、一つの作品を読書するプロセスと、現実の読書生活に連続し交流などを行うさらに大きなプロセスの輪の中に位置付けて育成すべきであると述べている。¹²⁾ また、そのプロセスを位置付けた読む力の基礎・基本を多様な視点から解明している。¹³⁾

「PISA スーツケース」は、読解力の定義を明確にするとともに、具体的な読書活動の目的やそれらによって作られる教材・教具という実物で提示するという特徴があることから、このような指摘を指導に生かすことができるものと考えられる。

(2) 日本版「PISA スーツケース」開発にあたっての課題

しかし、「PISA スーツケース」はあくまでもドイツの教育の現状を基に開発されたものである。例えば、ドイツにおける国語教育の特徴としては、言語教育と文学教育がその本質を成しているといった点があげられる。¹⁴⁾ 本研究において開発を目指す日本版「PISA スーツケース」が効果的に活用されるためには、その内容を我が国の教育に適合するものにしていく必要があると考えられる。具体的には、

- ①学習指導要領を基本とする教育課程を踏まえて開発すること。
- ②実際の授業の中でもきわめて大きな位置を占める教科書との整合性を図りつつ開発を進めること。
- ③文学的文章だけではなく、説明的文章における読解力の育成にも機能するものにする

こと。
が課題となると考える。

4 日本版「PISA スーツケース」の試作状況

(1)「読むプロセス」を具体化した読書活動ツールの開発

上述の意義と課題を踏まえつつ、まず「読むプロセス」を具体化した読書活動ツールの開発に着手している。その状況は以下の通りである。

①様々な読書行為の具体化

「PISA スーツケース」における「本の箱」「緋色の糸」「読書ロール」及びこれまでに蓄積された多様な授業実践¹⁵⁾ ¹⁶⁾を参考にし、「読むプロセス」を具体化した読書活動ツールとして制作できるものを構想した。さらに、その読書行為によってどのような読みの能力を育成できるかを明らかにし、「読書行為の特質」を位置付けた一覧を作成した。(表1)

表1 様々な読書行為の具体化一覧

	タイトル	読書行為の特質	概 要
1	本の箱	物語の基本的枠組みをとらえて読む	一つの箱に、登場人物、作者・タイトル・あらすじなどを記述したカード、出来事をセットにしたもの
2	緋色の糸	ストーリー展開をとらえて読む	赤い毛糸に、主な出来事を順につなげていったもの
3	読書ロール	本の魅力を意識して読む	ロール管の中に紹介の巻紙、ロールの外側には紹介の絵や言葉を記載
4	本の地図	空間の広がり意識して読む	描かれている場面、出来事を地図に表し、キャラクターや乗り物などを移動させて進んでいく
5	主人公の解説本	シリーズで主人公の特徴をとらえて読む	シリーズ作品の主人公のキャラクターや出来事を、作品ごとに紹介し、本にまとめる
6	「〇〇」の秘密	シリーズ自体の特徴を探して読む	いわゆる「サザエさん一家の秘密」など。本にして紹介する
7	読書カルタ	トピックを意識して読む	人物のキャラクター、出来事、場面設定などをカルタにしてまとめる
8	人物相関マップ	人物の相互関係を読む	登場人物を人物相関図にまとめる。主なキャラクターは人形にする
9	比べ読み対照表	比べて読む	比べ読みテキストの類似点、相違点を対照表にまとめ、その特徴を述べる
10	今すぐ本屋さん	評価して読む	作品の宣伝を、帯やポップ、チラシ（宣伝広告）などにまとめる
11	ブックトークキット	ブックトークをしながら読む	ブックトークのための本を選定し、紹介のための帯や図版、クイズ、ブックトークのシナリオなどをまとめる
12	作り方解説	順序を意識して読む	作り方の手順に関する本を、手順を図解してリライトする
13	シリーズ読書ガイドブック	シリーズの特徴をおさえて読む	シリーズ作品の概要、各作品紹介、登場人物紹介など、シリーズ全体の特徴をガイドブックにまとめる
14	作品間の類似・引用・原作比較	比べて読む	あるテキストに似ているテキストや、出典となったテキストを紹介し、どのように似ているか（引用したのか）解説
15	アンソロジー（名場面集）	編集して読む	テーマ読書をしたり詩集、句集を読んだりして、ある角度から編集してアンソロジーに編む
16	伝記＆伝記	評伝・自伝を読む	伝記に述べられた人物の一生（半生）を年表や紙芝居、巻紙などに
17	読書履歴書	読書記録をつけて読む	シリーズ読書、テーマ読書、比べ読み、重ね読みをした記録や感想を継続的にまとめる

②読書活動ツールの作成

次に、教科書教材など、小学校国語科の授業で使用可能なテキストを選定し、そのストーリーや文章構造の特徴を明らかにするとともに、その特徴を生かした読書活動ツールを作成した。

ア 試作例1「黄色いバケツ」

i) テキストの概要

小学校国語科教科書光村図書2学年上巻¹⁷⁾に掲載。もりやまみやこ作・つちだよしはる絵。

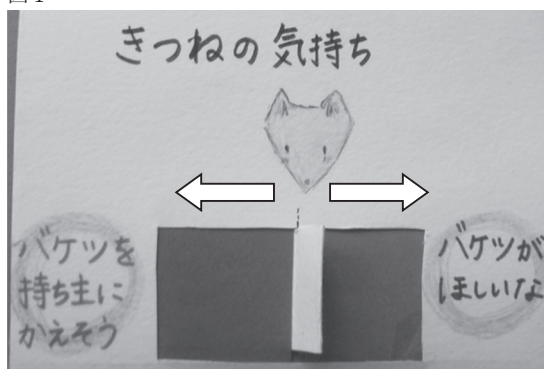
黄色いびかびか光ったバケツをひろったきつねの子。仲間の動物たちに、「もし、だれもとりにこなくて、ずっとそこにおきっぱなしだったら、きつねくんのにしたら。」と言われ、一週間揺れ動く気持ちで毎日を過ごす物語。

ii) 読書活動ツールの特徴

「タイトルからどんなお話を想像するか」「あらすじ」「作者」「登場人物」といった物語の基本構造を押さえるカードと、一週間の出来事を日記形式にした「きつねの子の一週間日記」及び、きつねの子の気持ちを表す可動式グラフ(図1)からなる。

特に可動式グラフを活用することで、従来は与えられたテキストを正確に読み取ることが学習の中心であったが、一週間のきつねの子の心の揺れ動きや高まりを感じ取りながら読んだり、その思いを紹介したりすることができるようになる。

図1



きつねの子の気持ちを表す可動式グラフ。「持ち主に返そう」という思いを赤で、「バケツがほしいな」という思いを青で表し、赤と青の幅を変えられるようにしている。

図2



おおきなかぶ 登場人物が場面毎に一人ずつ増えていく。

イ 試作例2「おおきなかぶ」

i) テキストの概要

小学校国語科教科書教育出版第1学年上巻¹⁸⁾に掲載。ロシア民話・うちだりさこ訳。

おじいさんが育てたかぶを、おじいさん・おばあさん・まご・いぬ・ねこ・ねずみと加わりながらとうとう引き抜いた話。

ii) 読書活動ツールの特徴

テキストの特徴である、徐々に人数が増えながら繰り返していく物語構造が実感しやすいように、登場人物を場面の繰り返しに合わせて一人ずつ人形を増やしながらかぶを紹介できるようにしている。このツールの活用によって、従来は特定の場面だ

日本版「PISA スーツケース」の開発に関する基礎的研究

けを意識して解釈しがちであったのに対し、物語の全体構造に着目して読むことができるようになると考えられる。(図2)

なお、読書活動ツールの試作にあたっては、平成18年度後期「国文学演習B」及び平成19年度前期「読書と豊かな人間性」を受講した学生諸君に協力をいただいた。本稿で取り上げた「黄色いバケツ」は山田優さん、「おおきなかぶ」は工藤あゆみさんの制作によるものである。

5 今後の日本版「PISA スーツケース」の開発にあたって

これらの読書活動ツールは、今後小学校国語科の授業でどのように活用するかを含めて検討・改善していく必要がある。

例えば、当該学年の児童が使用するのであれば、あらかじめ作られたツールを用いて読書紹介を行うことで、物語の特徴をとらえる学習などが考えられる。当該学年より上の学年の児童であれば、読書活動ツールを参考に、物語の構造をメタ認知したり、自分の選んだ物語の構造をつかみながら読んで、自ら読書活動ツールを作ったりするといった学習も考えられる。

活用方法を構想していくに当たり、ベルリンの基礎学校においてはどのように用いられているのかを改めて調査することも必要である。

また、現段階では、「PISA スーツケース」の8つの内容のうち、まだ一つを試作しているに過ぎない。今後日本版の開発を進めていくに当たり、学校教育関係者や図書館関係者との連携を図り、実効性のあるものにしていく必要がある。

なお、本研究は、科学研究費補助金 基盤研究（C）の研究成果の一部である。

文 献

- ¹ 国立教育政策研究所（2004）生きるための知識と技能 OECD 生徒の学習到達度調査結 PISA）2003 年調査国際結果報告書. ぎょうせい, pp.015-017
- ² 1 に同じ。pp.162-166
- ³ 文部科学省（2005）読解力向上に関する指導資料～PISA 調査（読解力）の結果分析と改善の方向～. 東洋館出版社, p.11
- ⁴ 国立教育政策研究所（2005）平成15年度小中学校教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所ホームページ上に結果を公開している。）
- ⁵ 水戸部修治（2006）国語科授業改善システム構築に関する考察. 山形大学教職・教育実践研究, 第2号：pp.43-52
- ⁶ 渡邊あや（2006）フィンランドの教育制度と教育改革, 実践国語研究No276. 明治図書, p.5
- ⁷ 教育課程審議会答申（1998）幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 盲学校, 聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について
- ⁸ 文部省（1999）小学校学習指導要領解説国語編. 東洋館出版社, p.18
- ⁹ 寺井正憲（2006）説明的文章の学習指導における新しい地平 基礎基本を問い直す作業の必要性. 実践国語研究No274. 明治図書, pp.126-130
- ¹⁰ 3 に同じ。p. 1
- ¹¹ 山形県教育委員会（2006）山形県子ども読書活動推進計画～本が大好き！いのち輝く山形の子ども読書活動サポートプラン～, p. 9
- ¹² 井上一郎（2005）「読解力」を伸ばす授業モデル集 上. 明治図書, pp.5-9
- ¹³ 井上一郎（2003）読む力の基礎・基本－17の視点による授業づくり－. 明治図書
- ¹⁴ 土山和久（2004）外国の国語教育（ドイツ）, 田近洵一・井上尚美編, 国語教育指導用語辞典. 教育出版, pp.356-357
- ¹⁵ 井上一郎（2002）読書力を付ける 読書活動のアイデアと実践例16 上巻. 明治図書
- ¹⁶ 井上一郎（2002）読書力を付ける 読書活動のアイデアと実践例16 下巻. 明治図書
- ¹⁷ 文部科学省検定済教科書 38光村 国語 221 小学校国語科用「こくご二上 たんぽぽ」
- ¹⁸ 文部科学省検定済教科書 17教出 国語 119 小学校国語科用「しょうがっこうこくご 1 上 ひろがることば」

Summary

MITOBE Shuji:

Development of “PISA Suitcase” the Japanese Edition

“PISA Suitcase” is a teaching material unit for Grundschule in Federal Republic of Germany to develop children’s reading literacy. In the OECD Programme for International Student Assessment 2000, the reading literacy level of Germany schoolchildren declined. To solve the problem it was made by Berliner Landesinstitut fuer Schule und Medien. It defines reading literacy clearly. And it shows various teaching methods.

In the PISA 2003, reading literacy level of Japanese schoolchildren had also fallen dramatically. It will solve the problem to develop of “PISA Suitcase” the Japanese edition. So I clarified the contents of “PISA Suitcase”. And I produced a trial tool of teaching materials. Through the work, I found that it is very important to make understand about a definition of reading literacy in PISA. And it is very important to show reading process.